

2021年6月5日

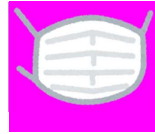
『明鏡国語辞典』編者
からの問題提起です

* 新着図書紹介

江戸取図書館便り 6月1号



— 新着図書紹介 —



ちゅうか ぼうしゅ
*** 仲夏「芒種」(2021年6月5日~)**

とうろしようず かまきり かま
*** 芒種の初候「蠨螂生」(6月5日~) 蠨螂は、鎌で獲物を狙う**

おが むし
姿が拝んでいるように見えるので「拝み虫」ともよばれます

とうらう たまひこれ いっさ
蠨螂や五分の魂 是見よと (小林一茶)

一茶の句の参考: 「一寸の虫にも五分の魂」とは、「小さく弱そうに見える者にも、それなりの意地や根性がある」ということの譬え。江戸時代はもとより現代でもよく使われることわざだが、鎌倉時代の幕府首脳部の一人が残した『北条重時家訓』に用例が見られるように長い歴史を持っている。また、「蠨螂が斧」とは、「カマキリがこの前脚の斧で人を乗せる大きな車に立ち向かってゆくというのが原義となる。そこから、力の無い者が己の力量をわきまえずに無謀なことを企てることの譬え。江戸中期前には、女子供でも見下して侮ってはならないとの意もあった。ことわざとしては中国の故事に由来し、日本でも平安時代の昔からよく用いられてきたもの」(『図説ことわざ事典』時田昌瑞著) (司書)



* 写真左から、夕暮れの空(5月31日撮影)。写真中央は、朝の青空と雲(6月1日撮影)。写真右は、花壇のカラー・ラベンダー・サルビア(6月4日撮影)。カラーとは、「夏、長い花茎の頂部に、大きな白色の苞(仏炎苞)に包まれた肉穂花序(多数の小さな花)がつく」(広辞苑)、白いの花びらにあらず。

